

■平成22年度事業報告

国際文化交流事業

◎エジプト文化交流の開催

今回の交流の目的の一つは、約20年前に本協会の招致で、東京・京都の池坊学院において生け花を勉強したエジプトの卒業生が、現在、エジプトNPO法人ジャパン・ソサエティ(会長・ダリア・ハムダ前駐日エジプト大使夫人)において生け花教室で教えているが、年月が経っているために、再度、確実に生け花の基本を身につけるために講義を受けさせるためである。平成22年3月29日から30日に専門講座を開催した。29日は国立カイロ大学、30日は国立アインシャムス大学において学生を対象に生け花セミナーを開催。



西田先生から指導を受ける卒業生

カイロ大学は約70名、アインシャムス大学では約50名の学生が初めて生け花を体験した。アインシャムス大学文学部長と面談した。30日の午前11時から、ムバラク大統領夫人が会長を務めるインターナショナル・ケア・ソサエティ(ICS)のホールにおいてデモンストレーションが開催され、約100名の会員の人が生け花の魅力を堪能した。ICSの事務総長と面談した。今回の文化交流では池坊華道会の協力を得て、池坊師範西田永氏、中村純子氏を派遣していただいた。また、石川薫日本大使の指示により、駐エジプト日本大使館文化広報センターの岸守所長の協力をいただいた。



カイロ大学



アインシャム大学

◎着物文化体験講座(着物パーティー)

☆平成21年5月23日(土)、午後2時から4時まで増上寺において開催。

駐日ウクライナ大使館、駐日アルゼンチン大使館、駐日キューバ大使館、駐日ペルー大使館、駐日ザンビア大使館、駐日ナイジェリア大使館、駐日スウェーデン大使館、駐日トルコ大使館、アメリカより22名が参加した。

☆平成21年10月17日(土)、午後2時から4時まで増上寺において開催。

駐日ブルガリア大使館、駐日コンゴ大使館、駐日ルーマニア大使館等9名が参加した。

☆平成22年2月20日(土)、午後2時から4時まで増上寺において開催。

駐日ドイツ大使館、駐日マレーシア大使館、駐日コロンビア大使館、駐日エクアドル大使館等、16名が参加した。

以上の事業には鈴乃屋きもの学院師範の方々が毎回10名から13名、ボランティアで協力して下さいます。参加者全員が着物を装った後、茶道の点前を見学し、参加者各自でお抹茶を点て鈴乃屋きもの学院の師範の先生方が賞味する。

使用する着物はすべて寄付されたものです。

◎第5回日本文化再発見セミナー

平成21年4月12日(日)から14日(火)の2泊3日の日程で、「海上の道」をテーマに福岡、長崎の吉岐の島

を訪ねた。本協会からは9名が参加し、初日は太宰府天満宮、吸収国立博物館、2日目は宗像大社、香椎宮、箱崎宮を訪れ、高速艇で壱岐に渡り、夜は住吉神社で壱岐神楽を奉拝した。3日目は島内の神社・遺跡他を巡った。

◎第4回チャリティーバザー開催

平成21年12月19日(土)、本協会ビルの会議室において、チャリティーバザーを開催した。今年は、ネパールのルンビニ開発委員会に13万円を寄付し、学校に行けない子供達に対して援助をした。

研修生交流事業

◎企業研修生の茶道・華道文化講座

☆平成21年6月19日(金)午後2時から4時まで増上寺において(財)日経連国際協力センターがアジアより招致した企業研修生12名(カンボジア・中国・インドネシア・ラオス・マレーシア・フィリピン・モンゴル・タイ・ベトナム、男性6名・女性6名)の日本文化体験講座を開催した。

茶道は、長年ご協力をいただいている裏千家の小松原宗真先生、華道は、池坊の大坂栄孝先生、中村純子先生にご指導をいただいた。



◎日本舞踊研修生(九州センター代表、西川鯉近／福岡市)

毎週1回、福岡の各大学の留学生を対象に西川鯉近師範が日本舞踊を指導。

平成21年5月16日(日)、福岡市立少年科学文化会館ホールにて第24回「国際文化交流・鯉の会」を開催し、その成果を舞台上で披露して大喝采を受けた。

出演者は福岡市の留学生他。

日本語教室事業

毎週月曜日、外交官、その家族、留学生を対象に開催している。月謝3千円。

日本語教師は、江間博美、酒井ゆきえ、川崎幸恵、寺岡恵子さんの4名がボランティアで日本語を教授。

ポーランド大使館において毎週水曜日に午後5時から午後6時15分まで実施されている。

インターフェイス・サークル事業

在日外交官を招いて、各国の国情やさまざまな文化習慣のレクチャーを受ける。

開催時間は午後6時～8時。

会費は本協会会員千円。協賛会員2千円。非会員3千円。学生千円。

第61回 平成22年2月3日(火) アーロン・フォースバーグ 駐日米国大使館経済担当官
(会場・東海大学校友会)

[PR・出版事業](#)

◎ホームページ

インターネットを活用した事業拡充を図った。

◎広報紙の発行

本協会の事業活動の報告、PRのための広報紙「インターカルチャーレター」を季刊(4回)発行した。会員、非会員、関係諸団体他に毎回約400通を送付。